

国立民族学博物館研究報告 vol.19-3; 表紙, 目次ほか

雑誌名	国立民族学博物館研究報告
巻	19
号	3
発行年	1995-02-28
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009192

1994—1993 卷3号

国立民族学博物館 研究報告

●
フィーとウダ・ラースあるいは骨と肉

——ベダムニ族の社会構造と世界観—— 林 勲男

現代ネツリック・イヌイト社会における社会関係について

——カナダ国北西準州ベリーベイ村の事例を中心に—— 岸上伸啓, スチュアート ヘンリ

ペルー・クスコ市におけるクルス・ベラクイの変容—— 加藤隆浩

Retribalization and Language Mixing: Aspects of Identity Strategies

among the Broome Aborigines, Western Australia—— Komei Hosokawa



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

19 卷 3 号

1994 年

目 次

フィーとウダ・ラースあるいは骨と肉 ——ベダムニ族の社会構造と世界観——	林 勲男	359
現代ネットリック・イヌイト社会における社会関係について ——カナダ国北西準州ペリーベイ村の事例を中心に——	岸上伸啓, スチュアート ヘンリ	405
ペルー・クスコ市におけるクルス・ベラクイの変容	加藤隆浩	449
Retribalization and Language Mixing: Aspects of Identity Strategies among the Broome Aborigines, Western Australia	Komei Hosokawa	491
彙 報		535
国立民族学博物館研究報告寄稿要項		540
国立民族学博物館研究報告執筆要領		541

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 19 No. 3

1994

HAYASHI, Isao	<i>Fi:</i> and <i>Uda La:su</i> or Bone and Flesh: Social Structure and Cosmology among the Bedamuni of Papua New Guinea	359
KISHIGAMI, Nobuhiro STEWART, Henry	Indigenous Social Relations in a Contemporary Canadian Inuit Society: A Case Study from Pelly Bay, Northwest Territories, Canada	405
KATO, Takahiro	The Transformation of Cruz Velacuy in Cusco City, Peru	449
HOSOKAWA, Komei	Retribalization and Language Mixing: Aspects of Identity Strategies among the Broome Aborigines, Western Australia	491

彙報 (平成6年7月～平成6年9月)

(スーダン, スーダン国立ジュバ大学教授)
<任期 5.10. 1～6. 9. 9>

人事異動

(行政職)

(昇任)

8月1日 管理部研究協力課専門官 新谷 吉成
(大阪大学工学部総務課人事掛長)

(教育職)

(昇任)

7月16日 第三研究部教授 江口 一久
(第三研究部助教授)

(配置換)

7月16日 第一研究部教授 吉田 集而
(第三研究部教授)

(客員研究部門)

8月1日 第五研究部助教授 STIRK, Ian Christopher
(大阪外国語大学外国人教師)

(外国人客員研究部門)

9月8日 第五研究部助教授 ICHINKHORLOOGIIN, Lkhagvasuren
(モンゴル, モンゴル国立民族歴史博物館長)
<任期 6. 9. 8～7. 3.31>
[任期满了]

8月22日 第五研究部助教授 額 爾 岱
(中華人民共和国, 新疆和布克賽爾県第一中学校副校長)
<任期 6. 2.21～6. 8.22>

8月31日 第五研究部助教授 CHAN, Kwok Bun
(シンガポール, シンガポール国立大学上級講師)
<任期 6. 5. 2～6. 8.31>

9月9日 第五研究部教授 TABAN, Lo Liyong

シンポジウム

◎創設20周年記念公開シンポジウム「21世紀の民族学と博物館——異文化をいかに提示するか——」

月日 平成6年7月20日(水)

場所 国立民族学博物館

摘要 今回のシンポジウムでは, 民族学者/人類学者と民族学博物館は, いかに異文化とかかわり, いかに異文化を「提示」していけばよいのかという, 民族学と民族学博物館の未来像を模索する目的で活発な議論を展開しました。

基調講演者

MACK, John 大英博物館民族誌部門・人類博物館長

コーディネイター

吉田 憲司 国立民族学博物館第四研究部助教授

パネリスト

MACK, John
今福 龍太 中部大学助教授
川口 幸也 世田谷美術館学芸員
小長谷有紀 国立民族学博物館第一研究部助教授
杉島 敬志 国立民族学博物館第二研究部助教授

日程 7月20日(水)

14:00 館長挨拶 佐々木高明

14:15 基調講演 「翻訳の行為」

MACK, John

15:30 パネル・ディスカッション

I. 個人発表

「民族誌的実在論の終焉と人類学の解学的転回」 杉島 敬志

「異文化という物語」 川口 幸也

「対話型博物館へ向けて」 小長谷有紀

「記憶術としての博物館」 今福 龍太

II. ディスカッション

海外における研究・調査・収集活動

氏名	官職	出発	帰国	行先
立川 武藏	教授 (第二研究部)	6. 7. 1	6. 7.18	中華人民共和国
中牧 弘允	助教授 (第一研究部)	6. 7. 1	6. 9.21	ブラジル
大森 康宏	助教授 (第五研究部)	6. 7. 4	6. 7.14	エストニア
上杉 富之	助手 (第二研究部)	6. 7. 5	6. 7.15	インドネシア, マレーシア
山本 紀夫	教授 (第五研究部)	6. 7.10	6.10.16	メキシコ, ペネズエラ, トリニダード・トバゴ, ドミニカ, ジャマイカ, キューバ, グアテマラ, ホンジュラス, エクアドル, ベルー, ボリビア, チリ, アルゼンチン, パラグアイ, ブラジル
崎山 理	教授 (第五研究部)	6. 7.21	6. 9.22	アメリカ合衆国, ミクロネシア, ベラウ
清水 昭俊	教授 (第四研究部)	6. 7.25	6. 8.31	ミクロネシア, マーシャル諸島, アメリカ合衆国
立川 武藏	教授 (第二研究部)	6. 7.28	6. 8.18	ネパール, インド
杉村 棟	教授 (第二研究部)	6. 7.31	6. 8. 7	イラン, イギリス
長野 泰彦	助教授 (第五研究部)	6. 8. 1	6. 8.30	インド, パキスタン, ネパール
庄司 博史	助教授 (第三研究部)	6. 8. 3	6. 8.23	エストニア
久保 正敏	助教授 (第五研究部)	6. 8. 3	6. 8.27	アメリカ合衆国, カナダ
小山 修三	教授 (第四研究部)	6. 8. 3	6. 9. 3	アメリカ合衆国, カナダ
松澤 員子	教授 (第一研究部)	6. 8. 5	6. 8.19	台湾
松原 正毅	教授 (地域研究企画交流センター)	6. 8. 7	6. 8.11	台湾
藤井 知昭	教授 (第二研究部)	6. 8. 8	6. 8.21	ラオス, タイ
福岡 正太	助手 (第二研究部)	6. 8. 8	6. 8.21	ラオス, タイ
秋道 智彌	助教授 (第一研究部)	6. 8.10	6.10. 5	インドネシア
吉本 忍	助教授 (第五研究部)	6. 8.11	6. 8.22	ノルウェー
横山 廣子	助教授 (第二研究部)	6. 8.12	6. 9.12	香港, 中華人民共和国
佐々木高明	館長	6. 8.14	6. 8.24	中華人民共和国
小長谷有紀	助教授 (第一研究部)	6. 8.14	6. 8.24	中華人民共和国
熊倉 功夫	教授 (第一研究部)	6. 8.15	6. 8.23	オランダ
朝倉 敏夫	助教授 (第一研究部)	6. 8.18	6. 9. 8	中華人民共和国
安村 直己	助手 (第四研究部)	6. 8.22	7. 2.22	メキシコ
立川 武藏	教授 (第二研究部)	6. 8.27	6. 9. 8	ドイツ, タイ
石毛 直道	教授 (第一研究部)	6. 8.31	6. 9. 5	大韓民国
石森 秀三	助教授 (第四研究部)	6. 8.31	6. 9.12	コスタリカ
佐藤 浩司	助手 (第四研究部)	6. 9. 1	6.10.31	ベトナム, シンガポール, インドネシア, マレーシア
田邊 繁治	教授 (第二研究部)	6. 9. 1	7. 6.30	タイ, イギリス
栗本 英世	助教授 (第三研究部)	6. 9. 3	6. 9.12	アメリカ合衆国

彙 報

吉田 憲司	助教授 (第四研究部)	6. 9. 3	6.11.17	ザンビア, イギリス
園田 直子	助 手 (第五研究部)	6. 9. 5	6. 9.24	ブルガリア, オーストリア
福岡 正太	助 手 (第二研究部)	6. 9. 5	6.11. 5	インドネシア
吉本 忍	助教授 (第五研究部)	6. 9.10	6. 9.20	インドネシア
柄木田明子	助 手 (第三研究部)	6. 9.11	6. 9.24	ブルガリア, オーストリア
江口 一久	教 授 (第三研究部)	6. 9.12	6. 9.26	中華人民共和国
周 達生	教 授 (第一研究部)	6. 9.21	6. 9.30	中華人民共和国
熊倉 功夫	教 授 (第一研究部)	6. 9.25	6.10.15	オランダ, ドイツ, オーストリア
近藤 雅樹	助 手 (第一研究部)	6. 9.25	6.10.15	オランダ, ドイツ, オーストリア

来館者抄

7月1日 北村 真征 (NHK 大阪放送局文化部長)

7月5日 上海市文学芸術界連合会一行
 団長: 李 倫 新 (中華人民共和国, 上海市文学芸術界連合会常務副主席), 秦 怡 (中華人民共和国, 中国映画人協会理事), 曹 簡 楼 (中華人民共和国, 上海交通大学文学芸術系教授), 姚 扣 根 (中華人民共和国, 上海市文学芸術界連合会研究室副主任), 張 惠 玉 (中華人民共和国, 上海市文学芸術界連合会連絡部副主任)

7月8日 米国人フルブライト国際教育交流職員一行 BIRD, Susan A. (アメリカ合衆国, ニューヨーク州立大学オズウェゴ校国際教育ディレクター), CARROLL, William J. (アメリカ合衆国, 全米留学生問題協議会プロフェッショナル開発ディレクター), GEHLHAR, James N. (アメリカ合衆国, テネシー大学ノックスビル校国際教育センターディレクター), KAHN, Beverly L. (アメリカ合衆国, フェアフィールド大学文理学部副学部長), SASHI, Rajgopal (アメリカ合衆

国, コロンバス・カレッジ教務副学長付国際学部ディレクター), WEINGARDEN, Ronit M. (アメリカ合衆国, チューレーン大学留学生センター副ディレクター)

7月11日 中国文物研究者一行 団長: 張 德 勤 (中華人民共和国, 国家文物局長), 宿 白 (中華人民共和国, 北京大学考古学系教授), 吳 熙 華 (中華人民共和国, 国家文物局外事処長), 魏 正 瑾 (中華人民共和国, 南京古都協会副会長), 邵 述 同 (中華人民共和国, 河北省保定地区清西陵管理主任), 塔 拉 (中華人民共和国, 内蒙古文物考古研究所副所長), 蘇 桂 芬 (中華人民共和国, 広州市文物局文物処長), 周 明 (中華人民共和国, 中華文物交流協会弁公室主任), 許 強 (中華人民共和国, 中央電視台新聞中心記者), 李 弘 冰 (中華人民共和国, 人民日報教科文組記者)

ABHAKORN, M. R. Rujata (タイ, チェンマイ大学図書館長・歴史学科講師), WOODTIKARN,

- Kruamas (タイ, チェンマイ大学芸術文化振興センター副所長・人文学部講師), SOOKSAWASDI, M. L. Surasawadi (タイ, チェンマイ大学芸術学部副部長), CHAROENMUANG, Tanet (タイ, チェンマイ大学政治学科講師), PORANANOND, Ploysri (タイ, チェンマイ大学人文学部歴史学科講師), NARUNIAT-REKAGARM, Sirichai (タイ, チェンマイ大学芸術学部講師)
- 7月20日 早田 憲治 (文部省学術国際局研究機関課長), 飯澤 隆夫 (文部省学術国際局研究機関課専門職員)
- 7月23日 三星文化国際化チーム日本研修団 Kim, Yoon-Shik (大韓民国, ソウル大学人文学部教授), SHIN, Jae-Kee (大韓民国, ソウル大学人文学部教授), HAN, Young-Woo (大韓民国, ソウル大学人文学部教授), NOH, Tae-Don (大韓民国, ソウル大学人文学部教授), AHN, Hwi-Joon (大韓民国, ソウル大学人文学部教授), SONG, Young-Bae (大韓民国, ソウル大学人文学部教授), CHUNG, Chin-Hong (大韓民国, ソウル大学人文学部教授), SONG, Byung-Nak (大韓民国, ソウル大学社会学部教授), KIM, Chae-Yun (大韓民国, ソウル大学社会学部教授), SHIN, Yong-Ha (大韓民国, ソウル大学社会学部教授), LEE, Kwang-Kyu (大韓民国, ソウル大学社会学部教授), WANG, Hahn-Sok (大韓民国, ソウル大学社会学部教授), Yi, Sung-Chun (大韓民国, ソウル大学音楽学部教授), HONG, Seok-Hwan (大韓民国, ソウル大学研究所専任研究員), Kim, Han-Suk (大韓民国, ソウル大学研究所専任研究員)
- 7月28日 AROM, Simha (フランス, 科学研究センター・ロ承文化研究室研究部長) 夫妻, BAHUCHET, Serge 夫妻
- 8月1日 NOUTH, Narang (カンボジア, 文化・芸術省長官) 夫妻
- 8月2日 全 東 勳 (大韓民国, 慶熙大学校建築工学科教授), 林 采 震 (大韓民国, 公益大学校建築工学科教授), 李 俊 九 (大韓民国, 前国立中央博物館遺物課長), 李 午 憲 (大韓民国, 湖岩美術館保存科学室長), 尹 南 淳 (国立中央博物館行政事務官)
- 8月10日 五十嵐耕一 (勲日本語教育振興協会理事長), 佐藤 保男 (勲日本語教育振興協会事務局長), 谷本 滋 (文部省学術国際局国際企画課教育文化交流室室長補佐), 河野 浩 (文部省学術国際局国際企画課教育文化交流室日本語教育企画係長)
- 8月12日 東京都臨海副都心マルチメディア情報通信実験プロジェクト推進協議会 (仮称) 一行
- 8月22日 タイ教育省国家文化委員会視察団一行
- 8月28日 タイ国立博物館一行

- 8月31日 田原 昭之(大阪大学事務局長)
- 9月3日 舒 展(中華人民共和国, 黒龍江省民族事務委員会副主任), 蘇 福 徳(中華人民共和国, 黒龍江省文化庁副庁長), 余 東 東(中華人民共和国, 浙江省群衆芸術館長), 雷 文 先(中華人民共和国, 浙江省景寧畲族自治県長)
- 9月8日 劉 志 清(中華人民共和国, 民族文化宮副主任), 李 九 琦(中華人民共和国, 中国民族図書館長), 邵 國 賢(中華人民共和国, 中国民族図書館副館長), 齊藤 光純(大正大学綜合佛教研究所), 木村 高尉(大正大学綜合佛教研究所), 多田 孝文(大正大学綜合佛教研究所), 福田 高穂(大正大学)
- 9月12日 コスタリカ共和国中米域内産業技術育成センター一行
- 9月13日 Sein Myint (ミャンマー, 画家・壁掛刺繍師)
- McRAE, Kenneth D. (カナダ, カールトン大学教授) 夫妻, 加藤 普章(大東文化大学法学部助教授)
- 9月21日 岩本 渉(文部省学術国際局研究機関課研究調査官)
- 9月22日 CHAKRAVARTY, Kalyan Kumar (インド, インディラ・ガンディ人類学博物館長)
- 9月27日 近畿官衙長連絡会一行 浦田 聖美(人事院近畿事務局長), 藤井 充(近畿管区行政監察局長), 原田 正毅(近畿管区警察局長), 浅井 輝久(陸上自衛隊第三師団長), 佐藤 利男(大阪防衛施設局長), 後藤 友明(外務省大阪分室長), 今井 俊介(大阪国税不服審判所長), 久光 紘一(大阪食糧事務所長), 蛎灰谷 操(大阪営林局長), 楠木 行雄(近畿運輸局長), 稲垣 紘史(第三港湾建設局長), 佐野 昭(大阪管区気象台長), 大角 宏之(近畿郵政監察局長), 中野 禮一(近畿郵政局長), 橋本鋼太郎(近畿地方建設局長), 藤井 正雄(大阪高等裁判所長官), 畑 郁夫(大阪地方裁判所長), 富澤 達(大阪家庭裁判所長), 小柳 毫男(自衛隊大阪地方連絡部長), 深澤 靖明(防衛庁調達実施本部大阪支部長), 曾我 紘一(近畿地方医務局長), 瀬野 浩(近畿管区行政監察局総務課長)

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認められた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1

国立民族学博物館内

国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り、図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

[柳田 1942: 67-69]
[Leach 1961: 123]
[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]

ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]
9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。
 - (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
 - (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。

欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13 (4): 311-330.

Bohannon, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14 (4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143。

Leach, Edmund

1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse. In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language, The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

1966 『文明をもった生物』日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

1974 『シャーマニズム——古代のエクスタシー技術——』堀一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 19卷3号

〔監 修〕

佐々木 高 明

〔編集委員長〕

友 枝 啓 泰

〔編集委員〕

秋 道 智 彌

泉 幽 香

上 杉 富 之

清 水 昭 俊

庄 司 博 史

新 免 光 比 呂

田 邊 繁 治

長 野 泰 彦

野 村 雅 一

松 山 利 夫

安 村 直 己

横 山 廣 子

平成7年2月28日 発行 非売品

国立民族学博物館研究報告 19卷3号

編集・発行 国立民族学博物館
〒565 吹田市千里万博公園10-1
TEL 06 (876) 2151(代表)

印 刷 中西印刷株式会社
〒602 京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075 (441) 3155(代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.19 no.3
1994

- HAYASHI, Isao *Fi: and Uda La:su* or Bone and Flesh: Social Structure and Cosmology among the Bedamuni of Papua New Guinea
- KISHIGAMI, Nobuhiro Indigenous Social Relations in a Contemporary Canadian Inuit Society: A Case Study from Pelly Bay, Northwest Territories, Canada
STEWART, Henry
- KATO, Takahiro The Transformation of Cruz Velacuy in Cusco City, Peru
- HOSOKAWA, Komei Retribalization and Language Mixing: Aspects of Identity Strategies among the Broome Aborigines, Western Australia



National Museum
of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151

ISSN 0385-180X